

雨降らし男の物語

心理学者のユングが、
宣教師リヒャルト・ヴィルヘルムから聞いたと言われる話に、
「雨降らし男」の物語があります。

これは、次のような物語です。

中国の地方のある村で、
干ばつのため雨が降らず、村人が困っていました。

そこで、村人は「雨降らし男」を呼んできて、
雨を降らしてくれるように頼みました。

すると、その男が、小屋をつくって籠ったところ、
三日目に雨が降り始めました。

その雨に村中が大喜びし、お礼を言うと、
その男は答えました。

あの雨は、私が降らしたのではない。
この村では、天の秩序に従って村人が生きていなかった。
そのため、雨が降らなかったのだ。

そして、その影響を受け、
この村にやってきたとき、私も天の秩序に反する状態になった。

そこで私は三日間籠って、私自身が秩序の状態になるのを待った。
すると自然に雨が降ってきたのだ。

この話は、東洋的な神秘の物語にも読めますが、
実は、我々が、職場などにおいて、
しばしば経験していることではないでしょうか。

職場におけるメンバーの心の和が乱れているとき、
すべてがうまく動かなくなることがあります。

しかし、そのとき、何にも働きかけず、
ただ、その中心にいるマネジャーが、心の静寂を取り戻すだけで、
その職場に心の和が回復し、
物事がうまく動き出すことがあります。

マネジメントとは、
そうした深みを持った世界でもあるのです。